

令和2年度第2回香美市まちづくり委員会 会議概要

1 概要

日 時 令和3年2月17日（水）午後6時30分～午後8時45分

場 所 香美市役所3階会議室

出席者 まちづくり委員 17名、事務局（企画財政課） 3名

欠席者 5名

2 開会のあいさつ（会長）

3 議題

（1）協働の取組に関する課題と対策について（グループワーク）

＜事務局からの説明＞

本日の会議は、香美市協働推進計画を策定するため、事前に提出いただいたアンケートをもとに、協働に関する課題と対策を洗い出すことを目的としている。

＜各班の発表＞

テーマ①「自治会の問題（自治会は必要か）」

○ 現状

- ・土佐山田町と香北町・物部町では組織の機能が異なる
- ・自治会の問題として、田舎では人口減少に伴う過疎化によって、自治会がなかなか維持できなくなっている。一方、街では加入者が減少していることによって加入率が低下している

○ 課題

- ・会費の支払いに対するメリットが無いという理由で、自治会になかなか加入してもらえない
- ・公民館を運営しているが、その経費も厳しくなってきている
- ・自治会は市の下請け機関のようになっているのではないか

○ 対策

- ・公民館の維持のための補助制度等があれば良い

テーマ②「介護予防」

○ 現状

- ・介護予防に関心が無い
- ・老人医療費の負担、食事のバランス、歯科口腔の管理、身体活動、閉じこもり、生きがい参加といったことが出来ていないのではないか

- 課題
 - ・情報が行き渡っていない
 - ・介護予防に関する関心が無いし、市から或いは市民の中で周知をする機会あったとしても、参加者が少なくいつも限られた人である
- 対策を立てるための切り口
 - ・情報、個人、役割
- 対策
 - ・高齢者も役割を持つことが大切であるという観点から、高齢者にもできる子育て支援を検討した。昨今、子どものおもちゃについてパソコン、スマホ、ゲームの障害が言われている。高齢者が関わることによって、少しでも避けていくことができるのではないか
 - ・延命治療を受けなくてよくなるように健康寿命を延ばしていく（市民と行政が協働で実施）
 - ・もっと介護予防に関する取組を広報してもらい、介護予防の取組をしているところには送迎手段なども考えていただきたい（行政が実施）
 - ・市民同士で介護予防に関して話し合う機会を作る（市民と行政が協働で実施）
 - ・市民一人一人が死生観（老後をどう生きるか、どう終わりを迎えるか）について考えていくようにすれば良いのではないか（市民が実施）

テーマ③「ごみ問題」

- 現状
 - ・ごみ出しのルールが守られておらず、色々な物が置かれるので動物が来る
 - ・ごみ出しのルールを守っていないのは、比較的若者や大学生が多い傾向があるようだ
 - ・他所の方がごみを持ってきて捨てていくことがある
- 課題
 - ・分別やごみ出しの日時をなぜ守らなければならないかということを分かつていないので、周知によって分かつてもらうということが必要である
 - ・ごみステーション置き場が民家のすぐそばにあるので、土地の所有者が臭いなどで迷惑している
 - ・ごみステーションまで持つていけない高齢者がいる
- 対策
 - ・仕様がしっかりしたごみステーションを市が調達して置くこと（行政が実施）
 - ・学生や若者に分別のルールや日時を周知する機会を設けること（市民と行政が協働で実施）

- ・ごみステーションにごみ出し日時の看板を立てる（市民と行政が協働で実施）
- ・高齢者が便利なように、ごみステーションを区域内に何カ所か置く（市民が実施）
- ・ごみをステーションまで持っていくことができない高齢者の方などは民生委員やボランティアを持って行っていただく（市民が実施）
- ・ごみの分別が必要な理由をパンフレットや広報により周知し、住民に理解してもらう（行政が実施）
- ・ごみの出し方に関するモニターチェックを実施する。一定期間、モニターチェックをして綺麗にゴミ出しができるようになったらモニターを終了する（市民と行政が協働で実施）

テーマ④「市民と行政の協働のあり方」

○ 現状

- ・市民が協働という意味合いを知っているかどうかということ。実際には行政と何らかの関わりを持って協働しているし、例えば商工会などの団体に所属していれば、知らず知らずのうちに行政と協働しているとは思う

○ 課題

- ・一般の方には協働という言葉が浸透していないという気がする
- ・市民と行政がお互いがすることできることの擦り合わせを行う機会があれば良い

○ 対策

- ・例えば、何らかの事案があった際、コンサルタントなどに事案を持っていければ良い面はあると思う。ただし、香美市の地場に合ったものを作り上げていくためには、時間はかかりながらも地元の色んな専門家にヒアリングすることも大事なのではないか。そこに利害が発生する可能があるので、線引きが難しいとは思う。その線引きをどこにするかというの課題である。一定の報酬を支払って専門家のノウハウ、知識を有償で行政側が得る方法もある

（2）その他

<今後の取組について>

- 我々の任期は来月末までであるが、それまでに何をするのか。
- これまでの会議について整理し、次期まちづくり委員会へ繋げていくことについて協議できればいいと思っている。今日の議論が終わっていない班もあるので、その議論についてどう取り組むかということも含めて事務局と検討する。今年度はそこまで、次期委員会に繋いでいくことについて、皆さんで共有し共通認識を持つというところまで行ければ良いと思っている
- コロナの影響があったが、最初から何をやるのか分からぬまま始まって、結

局何をやったのか分からぬまま終わっていく気がしている。最後はきっちりまとめていただきたい。

○今年度の委員会では、協働推進計画に取り組むと最初からお話をさせていただいて、協働とはどういうことなのかということも含めてやっていたが、今年度は二回目なのでこういうことになった。次回の会議は、この次の委員会にどのような引継ぎをするかということが内容としてはメインになるかもしれない。それについて皆さんの意見がいただけるような仕組みを資料として揃えて、次回の会にお示しできれば良いと考えている。

4 閉会